

SHIN CLUB 296

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「ティノラス神宮前ビル」 撮影：アック東京

ありふれたもののなかにある「新しい価値」

写真は、8月に竣工いたしました「ティノラス神宮前ビル」です。

東京メトロ副都心線及び千代田線「明治神宮前（原宿）」駅から徒歩5分。キャットストリートにほど近く、SC195号で紹介の「FRED PERRY SHOP TOKYO」の隣に位置しているその建物は、神宮前エリアを中心に活動するen one tokyo株式会社プロデュースのもと、建築に限らず、プロダクトやインテリアなど幅広い設計をおこなうケース・リアルの二侯公一氏、建築設計を中心にリノベーションや内装などの設計もおこなう渡辺淳一建築設計事務所の渡辺淳一氏によって設計されました。

表参道から1歩踏み入れた流行発信地の角地に位置する「ティノラス神宮前ビル」。テナントビルとしてはこの上ない計画地ですが、大胆にもその1階部分に吹き抜けを設け、ヴォイドの抜け感を感じられる印象的なデザインを採用しました。

「以前はR状の前面ガラス張りの建物が敷地面積いっぱい建っていました。それが“街に対して非常に迫ってきている印象が強かった”というのと、また“地下階が閉鎖的で湿気の観点からテナントとして活かされていない”という2点が問題として挙がっていました。特にen one tokyoさんは、建物に対する価値と、その建物が建った後の街に対する影響など大きな視野で検討してしま

したので、建て主様と共に『ここにしかないモノ』を作りましょうという想いで今回の計画に望みました」と設計を担当した二侯公一氏。

大きな吹き抜けから見える構造物は細い円柱のみ。室内は無柱空間が広がり、これほど大きな躯体に対して梁や柱が1本も見当たりません。

『ティノラス神宮前ビル』は一部鉄骨のRC造で、梁や柱は壁スラブのなかに鉄骨を建てることで隠しています。そのおかげで目に見える構造物は吹き抜け部にある細い円柱のみで納めることができました」と渡辺淳一氏。この規模の建物で、ここまで構造的に難しいのはなかなか珍しいと語ります。

「本来1階の道路側はテナントとして1番の顔となる部分です。『床面積いっぱい取る＝テナント価値の最大値』という固定概念を変え、『ここにしかないモノ』を追求していった結果、視線や空気が抜け、地下階に光が入り、街に対しても特別なテナントビルとなったのだと思います」（二侯氏）
「建物を俯瞰で見たとき、ありふれたテナントビルのなかに建つ『ティノラス神宮前ビル』は非常に目立ちますね」（渡辺氏）

ありふれたもののなかにある「新しい価値」は「特別」を生むのです。

ティノラス神宮前ビル



建物全景。大きな吹き抜けが特徴的



南側全景。吹き抜けを通して対角側へ視線が抜ける



1階から地下階への階段室



重厚感と細ラインの手摺



建物夕景

見えないファサード

「ティノラス神宮前ビル」は、躯体・サッシ・手摺と、建物としてはシンプルな構成での計画であったため、そのなかで「ここだけにしかないモノ」となるよう随所に工夫を施した。

手摺は「細く・ミニマムに」という意識も持っているが、プロダクトやインテリア設計の目線から見たときに、「あるべき要素は造形としてしっかり考えたほうが良い」という想いのもと、製品の安全性や耐久性を十分に確保した上でデザイン性と設置方法を検討した。幅は65mmと幅広だが、厚みを6mmの縦格子とすることで重厚感がありつつもラインを細く魅せる工夫を施した。また、無柱空間とした躯体はスラブ厚300mm、壁厚280mmと質感の重さを感じるが、手摺の重厚感と細いラインが相まってファサードの透け感を向上させている。

無柱空間を最大限活かすため、外部照明などの凹凸は出来る限り減らすように心掛けた。なかでも共用部の天井照明をどうするか考えたとき、設置箇所として唯一目に入る構造部の円柱に着目。しかしテラスとして人が往来する箇所に、ただ照明器具を備え付けるのでは耐久性に不安が残る。そのため、人が乗ったり座ったりしても問題ないよう耐久性を持たせたアップライトを制作。天井にハレーションさせることで照度も確保し、且つ照明器具の凹凸のないフラットな印象のまま納めることができた。

テナントビルとして1番の顔である1階床のコーナーを空けることで、空気の塊を感じられる吹き抜けとなった。同時に、道路面にスラブが迫り出していることで、ヴォイドがあるにもかかわらず、建物の輪郭が生まれている。また視線が遠くに向かうようになり、ガラスを通し1階から地下階の床、対角側の道路を抜けた先など、通常よりも遠くに視線が伸びていく。建物に奥行きが生まれ、まるで「見えないファサード」が存在しているようだ。

シンプルな構成ではあるが、随所にこだわりが詰め込まれた「ティノラス神宮前ビル」は、街角の一面のテナントビルではなく、街並みというパズルのピースの一片として、これからも愛され続けるだろう。

(ケース・リアル / 二俣公一氏・渡辺淳一建築設計事務所 / 渡辺淳一氏 談)



地下1階。吹き抜けから光が差し込む



1階。ガラス越しに視線が抜ける



撮影：アック東京
アップライトのハレーションが天井を照らす



2階。大きなサッシが開放感を演出

所在地：東京都渋谷区神宮前 5-9-7
 構造：RC造（一部鉄骨）
 規模：地下1階・地上2階
 用途：店舗
 企画・プロデュース：en one tokyo
 設計・監理：ケース・リアル
 設計・監理：渡辺淳一建築設計事務所
 構造設計：オーノ JAPAN
 照明計画：BRANCH LIGHTING DESIGN
 植栽計画：GREENETTA
 竣工年月：2024年8月
 施工担当：中村・齋藤（歩） / 尾内チーム
 撮影：志摩大輔・アック東京



Jyunichi Watanabe



Koichi Futatsumata

今月は「ティノラス神宮前ビル」の設計者、ケース・リアルの主宰二俣公一氏と、渡辺淳一建築設計事務所の渡辺淳一氏にお話を伺いました。

福岡と東京に拠点をもち、建築のみならずインテリアや家具など幅広いデザインをおこなう二俣氏。その評価は高く、海外でも高い人気を得ています。一方横浜国立大学建築学科大学院を修了後、事務所時代での修行を経て12年ほど前に独立された渡辺氏。大学在学中に出会ったとある恩師の影響で、建築設計の道を強く志したそうです。互いに違う目線をお持ちの両者。今回の計画で、互いに影響しあったことがあったとか。

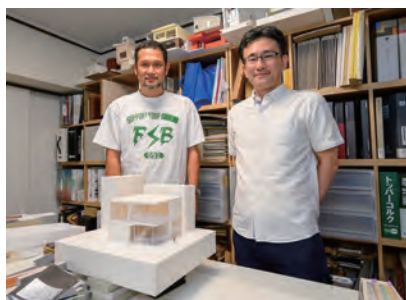
—二俣さんは大学の建築学科を卒業後、インテリアや家具デザインなど幅広く活躍されていますね。もともとそういった構想をお持ちだったのでしょうか。

二俣：建築を勉強してきたからこそ、建物の延長線上に存在するインテリアや家具など、建物より小さいモノの設計ができるのではと思っていました。逆に建築目線だけで見ると、納め方や機能性に不安が残ることがあると感じていたんです。それぞれの分野の視点が異なるとも言えます。だからこそ、各分野の仕事に垣根なく取り組むことで、相乗効果が得られるのではと考えました。そういったことをやっていきたいと思い始めたのが20代前半頃でした。1つの分野に絞らない弱さはあるのですが、できるだけ1つ1つ丁寧に設計し、責任もって考えられるモノはどんどん挑戦していきたいです。

—そうだったんですね。その想いは「ティノラス神宮前ビル」でも感じました。渡辺さんは横浜国立大学の建築学科ご出身ですね。もともと建築設計を志されていたのでしょうか。

渡辺：進学時点ではそこまでの意識はありませんでしたが、入学後、北山恒氏に教わったのが1番大きかったですね。「建築は面白いな」と思わせてくれた方です。そのときに、「建築設計でやっていこう」と心に決めました。それから幾つかの設計事務所での修行後、独立。住宅や集合住宅のみならず店舗やオフィス、リノベーション設計などもおこなっています。

—北山氏の影響は大きいですね。建築に対して最初の印象とどのような違いがありましたか。



ケース・リアル事務所内にて

渡辺：デザインの格好良さだけではなく、建築家の社会的な責任やその建物が都市に対しどうあるべきか、今後の街に対しどういった影響を与えることになるのか、空間の強制力に対して意識を持って行動できるかなど、建物の根本に対する考え方を学びました。デザ

インは就職してからいろいろな影響を受けて創り上げていけるので、大学で多くは教えない。独り立ちしたとき芯になっていくのはその考え方だと。

—建物1棟でも周辺環境やその影響というのは大きく関わってきますよね。今回の計画で、渡辺さんの持つ建築家目線で二俣さんの意匠や着眼点をみたとき、面白いなと感じたことはありましたか。

渡辺：私はプロダクトなどは学んでいませんが、デザインの処理の仕方など気にしているところが互いに似ているなと思いました。

二俣：渡辺さんはすごく細かな点を気にかけてくれるんです。緻密に積み上げていく人だなと感じました。私はいろんな目線を持っているからこそ気が付く点があるのですが、渡辺さんはそれでも細かいところに気が付くんですね。プロダクトを作るときの0.何mmは全く違う結果になってしまうのですが、建築にその精密さを求めてもできるわけがない。でも渡辺さんはその細かいところに気が付き、「何か違うな」と思うその着目点が私と似ているんです。建物に対するアプローチは違いますが、作り手の細かい納まりについての感覚が近いので、一緒に仕事が出来るんだと思います。

渡辺：自分1人でやっている和金額や工期など、様々な要因を気に掛けてまとめていくうちに、デザインに対して妥協が出てしまうことがあります。でも今回のコラボで「昔はこうやっていたよな」という感覚を再度思い出させてくれたように思います。もう1度緻密に、その精度をさらに上げていこうと思いました。

二俣：良いものを作るためにギリギリまで諦めない姿勢ですが、やはり建て主様や施工会社とのバランスが大事なので、引渡しの際には皆が良かったねと言えるようにしたいという想いは私も渡辺さんも同じくらい強かったです。

渡辺：自分たちがやりたいことももちろんありますが、そのこだわりは、客観性のなかでこそ実現されるべきで、関係者皆が良かったと思えるような状態で引渡しをしたいですね。

—本日はありがとうございました。

二俣 公一（ふたつまた こういち）

1975年 鹿児島県生まれ
1998年 九州産業大学工学部建築学科 卒業
デザインユニット「CASE REAL」活動開始
2000年 ケース・リアル（CASE-REAL）福岡にて設立
2005年 ケース・リアル（CASE-REAL）東京事務所設立
2013年 二俣スタジオ（KOICHI FUTATSUMATA STUDIO）設置
2021年～ 神戸芸術工科大学 芸術工学部 プロダクト・インテリアデザイン
2023年 学科 客員教授

渡辺 淳一（わたなべ じゅんいち）

1973年 静岡県生まれ
1999年 横浜国立大学建築学科大学院 修了
楠山設計 入所
2004年 ブラネットワークス 入所
2012年 渡辺淳一建築設計事務所設立

TOPICS/INFORMATION

「夢にときめけ！明日にきらめけ！」 SBC “辰 Baseball Club” 活動レポート

— 令和6年度渋谷区民秋季軟式野球大会 —

11月2日(日)、弊社の軟式野球チーム「SBC」が「令和6年渋谷区民秋季軟式野球大会」の2回戦に出場しました。



秋晴れのなか試合開始

当初の予定は9月1日(日)でしたが、台風10号の影響で幾度の延期を重ね、開催自体危ぶまれましたが無事に開催されました。

1回戦は対戦相手の棄権ということもあり、実質初戦となる対戦相手は強豪「渋谷区役所ヤングチーム」。気持ちのいい秋晴れのもと、両軍整列して試合開始です。

1回の表、先攻SBCの攻撃は先頭打者の建築部谷田がフルスイングから痛烈な当たりも相手の好守にはばまれ1死、続く2番建築部富樫が出塁の後、1死一・二塁のチャンスで4番総務部佐々木の打球は惜しくもセンターライナー、飛び出したランナーも刺されダブルプレーとなり無得点に終わりました。その裏、相手の攻撃は連打を浴びましたがショート



終始にこやかな雰囲気

谷田の好返球もあり1失点に押えたものの、2回以降は自力の差から一方的な展開となりました。3回にはセカンド村田のファインプレーが飛び出すなどしましたが、健闘むなしく4回0-7のコールド負けとなってしまいました。またしても初勝利はお預けとなつ



てしまいましたが、対戦相手の「渋谷区役所ヤングチーム」の皆様のおかげで気持ちの良い試合となりました。ぜひ優勝目指して頑張っていただきたいと思います。

新たに加入した若手社員も増え、活気に満ちてきたSBC。コロナの影響も薄れ、以前の日常に戻つつある今だからこそ、日々の練習の再開、試合に向けたミーティングをおこない、次回大会では初勝利を勝ち取ります！

「SBC」とは、辰の社員・協力業者・設計事務所・お客様などが気軽に参加できるクラブ活動で、毎月最終水曜日19時から活動しています。



真剣な眼差しを送る建築本部長讃井

野球未経験の方や女性・お子さまの参加も大歓迎です。また練習試合の申込も随時受付けていますのでお問合せ下さい。



今回は初戦突破！

【SBCへのご参加・試合他お問合せ】

(株)辰 担当：佐々木・笹原

TEL：03-3486-1570

メール：shinfo@esna.co.jp

皆さまのご参加お待ちしております。

「辰 Re. Project」チラシ配布

10月中旬、渋谷区神宮前1丁目から神宮前6丁目エリアに掛けて、「辰 Re. Project」のチラシを配布いたしました。

新築工事の印象が強い弊社ですが、実は大規模改修工事やリノベーション工事、小さなリフォーム工事まで、建築に関わる工事を幅広く承っています。

今回のチラシは、そんな弊社をもっと知ってもらえたらという想いから、日頃新築工事の多い神宮前エリア限定でお配りしたのになります。

■コンバージョン工事 ■大規模改修工事

過去の実績など、弊社HPにもご紹介しております。ぜひご覧ください。



実際に配布したチラシ。山折りA5サイズの両面刷りとなっています



「WHARF 六本木」が2024年度グッドデザイン賞を受賞



撮影：NISIKAWA MASAO

SC290号でご紹介いたしました「WHARF 六本木」が、GOOD DESIGN AWARD2024において、産業/商業空間部門で受賞いたしました。

所在地：港区六本木3丁目 | 構造：RC造 | 規模：地下1階・地上5階 | 用途：飲食店・事務所 | 設計監理：SALHAUS/maires | 事業主：(株)サンウッド | 施工担当：池山・岸崎 | 竣工：2024年1月

「ZYGZAG」が2024年度グッドデザイン賞を受賞



撮影：関拓弥

SC286号でご紹介いたしました「ZYGZAG」が、GOOD DESIGN AWARD2024において、産業/商業空間部門で受賞いたしました。

構造：RC造 | 規模：地上3階 | 用途：テナントビル | 設計監理：田邊曜建築設計事務所 | 設計協力：渡邊真弓建築設計事務所 | 構造設計：構造計画プラス・ワン | 事業主：サンピア(株) | 施工担当：齋藤(敏) | 竣工：2023年10月

編集後記

・昨年竣工しました建物2棟同時に賞を受賞いたしました。非常に嬉しい限りです。建て主様・設計者の「こだわり」が形になったことで、多くの人々に共感と感動を与えているのだと実感いたします。これからも皆さまの「こだわり」をとことん追求してまいります。

(株)辰 通信 Vol.296 発行日 2024年11月10日
 編集人：本間夏来/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
 FAX:03-3486-1450 E-mail：daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから →

